

第16回 日本Tweed矯正歯科研究会大会

The 16th Japan Tweed Association biennial meeting

30周年記念大会



開催日時 2025年11月9日（日）9:30 ~ 17:00（9:00開場・受付開始）

会 場 東京ガーデンパレス 天空

特別公演

◆ 伝統的ツイード法におけるアンカースクリューの応用について

出口 徹先生 （Louisville大学、歯科矯正学主任教授）





日本Tweed矯正歯科研究会
会長 清水典佳

日本Tweed矯正歯科研究会は、1994年Tweedの理念を実践している矯正歯科医が集まり発足し、Tweedの理念に基づいたEdgewise法の基本的教育と質の高い矯正歯科治療を発展させるために活動しており、矯正歯科界を背負う若い矯正歯科医の育成にも力を入れております。

本研究会は1995年から隔年で学術大会を開催しており、一昨年の第15回大会ではTweed course directorであるJames Vaden 先生にご講演をいただきました。今年の第16回大会ではLouisville大学、歯科矯正学主任教授である出口 徹先生をお招きして「伝統的ツイード法におけるアンカースクリューの応用について」ご講演をいただく予定です。さらに、長年アメリカの矯正歯科界で活躍しておられることから、アライナー治療や他の矯正歯科に関連する問題点等、アメリカと日本の矯正歯科事情の差異についてもお話しいたぐ予定です。また会員による治療症例の検討会や学術発表もありますので、お時間がありましたら、是非御茶ノ水まで足をお運びいただきますようお願い申し上げます。

特別講演 10:45~12:30 出口 徹 先生

座長 清水典佳

伝統的ツイード法におけるアンカースクリューの応用について

1941年にDr. Tweedが最初のツイード勉強会を開催してから約80年の年月が経ちました。以来、ツイード研究会から数多くの優秀な矯正歯科医が輩出され、ツイード研究会はまさに臨床矯正歯科の礎を築いたと言っても過言ではありません。ツイード理論の特徴は1) アンカレッジコントロール、2) 垂直水平方向のコントロール、3) 不適切な拡大防止、4) 良好なプロファイルの獲得であると思われます。この4つの方針はほとんどの矯正歯科テクニックのゴール達成に共通して必要であると思われます。以上の方針に則った治療を行うためには正しい診断と治療計画およびフォースシステムが求められます。ツイード法では緻密で効果的なワイヤーベンディングと顎外装置の使用を特徴とするフォースシステムが、機能的かつ審美的に理想とされる咬合と顔貌の獲得に大きく寄与します。しかし、ツイード法の最大の弱点は治療結果が患者様の協力性に左右されることです。理想的なゴールの達成には患者様の顎外装置と顎間ゴムの使用が不可欠となるからです。そこで、その弱点を払拭するため、自分が2002年以来、主に行っている方法がアンカースクリューを用いた矯正歯科治療法です。アンカースクリューの最大の利点は患者様の協力を最小限に抑えることが出来る点です。自分がアンカースクリューを使う際に配慮していることは2つあり、可能な限り小さなスクリューを用いることと、植立部位として頬側を選択することです。一般的に頬側スクリューは歯根に近接しがちで脱落しやすいと言われますが、これは小さな工夫で避けることができます。今回は自分がアンカースクリューを用いてどの様にツイード理論を矯正歯科臨床で応用しているかを供覧し、又、過去の論文を参照にしながら様々なツイード理論をアンカースクリューと比較し考察していきたいと思ひます。またアメリカにおける矯正治療のトレンドや、日本との矯正歯科事情の差異などにも触れてみたいと思ひます。

講師略歴

- 1992 Graduated Aichi-Gakuin University School of Dentistry
- 1996 Graduated PhD course in Orthodontics in Okayama University
- 2001 Graduated Master's course in Orthodontics in Indiana University
- 2001 Clinical instructor in Department of Orthodontics in Indiana University
- 2002 Assistant Professor of Department of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics in Okayama University
- 2010 Associate Professor of Division of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics in Tohoku University
- 2013 Associate Professor and Program Director of The Ohio State University Division of Orthodontics
- 2020 Professor and Program Director of The Ohio State University Division of Orthodontics
- 2022 Professor and Chair, Department of Rehabilitative and Reconstructive Dentistry, Division of Orthodontics and Prosthodontics, University of Louisville, School of Dentistry



Louisville大学、歯科矯正学主任教授
ツイードコースインストラクター
出口 徹 先生

日本 Tweed 矯正歯科研究会 30年の歩み ～ Dr. Harb Klontz Memorial ～

1994年に日本Tweed矯正歯科研究会が発足して以来、今年で30年の節目となります。今回の記念大会で、発会の経緯やこれまでの本会の活動などを振り返りたいと思います。また発足当初から2019年までプレッソンコースのインストラクターとして毎年日本に来ていただき、2023年にお亡くなりになったクロンツ先生の追悼の意味を込めて、クロンツ先生の思い出やエピソードをご紹介します。そして様々な治療装置や治療法が混在する今の時代に、今後の本会の進むべき方向などもご報告したいと思います。



症例検討 14:00~15:30

清水典佳

会員展示症例の症例検討を行います

会員発表 15:40~17:00

座長 稲毛滋自

1.上下顎前突の治療-アンカースクリューとヘッドギア使用による歯列移動の差について-



上下顎前突の治療では、従来は固定源としてヘッドギアが使用されてきましたが、近年は、特に重度な上下顎前突症例では絶対的固定源としてアンカースクリューが使用されることが多くなってきました。そこで上下顎前突症例(40症例;アンカースクリュー20症例+ヘッドギア20症例)における歯の移動動態やプロファイルの変化について検討しましたので報告いたします。

日本大学歯学部歯科矯正学講座
馬谷原琴枝

2.小白歯4本と大白歯4本を同時に抜歯したアングルⅡ級1類症例



患者は22歳。重度の骨格性Ⅱ級、アングルⅡ級1類の不正咬合で、オーバージェット:+9mm、オーバースト:+4mm、および下顎前歯の重度の叢生を呈していた。トータルディスクレパンシーが大きく、第一大臼歯4本が失活し補綴されていたため、小白歯4本と第一大臼歯すべてを抜歯し、第三大臼歯を用いて治療を行った。治療期間は3年間であった。患者の顔貌と咬合は著しく改善した。しかし、保定後、臼歯部に軽度の咬合後戻りが認められた。

藤崎矯正歯科クリニック
藤崎臣弘

3.最大の固定を必要とした成人症例



成人の著しい上顎前突および上下顎症例においては、十分な改善を行うために、大白歯の近心移動や挺出による下顎の後下方回転を防止し、上下顎前歯の圧下および舌側移動を行うことが重要である。そこで、Tweed-Merrifield法のフィロソフィーに基づいて、バーティカルコントロールに留意して治療を行った、最大の固定を必要とする上顎前突および上下顎前突症例について、良好な治療結果を得たので報告する。

症例1 21歳7か月 女性 上顎前突 上下顎両側第一小白歯および上顎第一大臼歯を抜歯 上顎にHPJを装着
症例2 21歳0か月 女性 上下顎前突 上下顎両側第一小白歯および上下顎両側第三大臼歯を抜歯 上下顎にHPJを装着

齋藤歯科クリニック
阿部 操

4.下顎後退症に対する外科的矯正治療



下顎後退を伴うSkeletal Class II症例では、歯列不正やProfileなどの形態的異常に加えて、呼吸、嚥下等の機能的異常が認められる。また、矯正治療単独でTweed Philosophyに基づいた治療ゴールを達成する事が困難な症例も多い。そこで私は、形態的異常と機能的異常改善のため積極的に外科的矯正治療を行っている。現在、私が行っている外科的矯正治療について症例を交えて報告する。

樋口矯正歯科クリニック
河合 悟

プログラム

9:00 受付開始 ※参加会員は症例を各自展示していただきます

9:30 会員総会 ※会員のみ

10:00 大会開始・会長挨拶

10:05～10:45 特別企画

日本 Tweed 矯正歯科学研究会 30年の歩み ～ Dr. Harb Klontz Memorial ～

10:45～12:30 特別講演

Louisville大学、歯科矯正学主任教授 出口 徹 先生

伝統的ツイード法におけるアンカースクリューの応用について

12:30～14:00 昼食 ◆軽食をご用意します 展示症例をご覧ください 14:00より症例検討を行います

14:00～15:30 会員提出症例の症例検討

休憩 (10分)

15:40～17:00 会員発表

- 1.上下顎前突の治療-アンカースクリューとヘッドギア使用による歯列移動の差について----- 馬谷原琴枝
- 2.小白歯4本と大白歯4本を同時に抜歯したアングルⅡ級1類症例 ----- 藤崎臣弘
- 3.最大の固定を必要とした成人症例 ----- 阿部 操
- 4.下顎後退症に対する外科的矯正治療 ----- 河合 悟

17:00 閉会

18:00～20:00 懇親会 東京ガーデンパレス 平安(3階)

大会・懇親会会場:東京ガーデンパレス
〒113-0034 東京都文京区湯島1-7-5
TEL:03-3813-6211
<https://www.hotelgp-tokyo.com>

大会参加申し込みQRコード

申し込み：右のQRコードより入力をお願いします。



お問い合わせ先：日本Tweed矯正歯科学研究会 総務・庶務 藤崎臣弘
〒771-0204 徳島県板野郡北島町鯛浜字大西153-6 藤崎矯正歯科クリニック
TEL:088-698-0919 fujisaki@fujisaki-kyousei.com
(当日のみ携帯へ:090-6537-7407)



日本Tweed矯正歯科学研究会
<http://www.tweed.jp/>

